



ヒサ先生、今年の冬はとても寒かったけど、最近風が温かく優しくなり春の予感がします。(^_^) 昨年の今頃、国家試験を受けてたんだな～と思えば、私、とっても遠くへ来てしまった感じがします。(・_・) もう学生時代が遠い懐かしい昔の思い出になりましたが、今は、まだまだ悪戦苦闘の毎日で、そして、未来はあまりにも漠然としています。(_) ルートさえ失敗したり、IVHなんてまだまだだし… 将来の進路、彼との結婚、両親のこと、故郷… 何からどう考えればいいのでしょうか？ (_ ;) 「オズの魔法使い」のドロシーのように、どこか虹の向こうの悩みのない国へ… と思ったりもします！ o(^.^)o ヨウコより。

P.S もうすぐ帰国ですね、楽しみに待ってます!! O(≧▽≦)O

このコーナーでは、カナダ・トロント大学へ臨床指導医研修を受けに留学中の Dr.Hisa と新米研修医 Dr.ヨウコとの交換 E-mail をご紹介します。

ドクター★Hisa

長崎医療センター・教育研修部に所属。

Dr. Hisa

He is a doctor from Japan currently studying Canadian primary care and medical education system. He enjoys having many kinds Beers and jogging when it's -20 °C outside.

> 昨年の今頃、国家試験を受けてたんだな～と… 今は、まだまだ悪戦苦闘の毎日で… 悪戦苦闘は永遠に続くかもしれないヨ。だから肩の力を少し抜いて！ 先は長い。

医師免許だけでは何もできず、そこから終わらないう研鑽が始まる。カナダのプロフェッショナルな職業では、勉強し続けることは義務であり責任である。それ故、Continuing Medical Education (CME : 医師生涯教育) のシステムは進んでいる。例えば家庭医であり続けるために、5年間で250単位(家庭医協会が指定す

る約1時間1単位のコース)が必要で、さらにトロント大学の教育関連病院に勤めるためにはマスターコースの習得はほぼ必須、そのうえ、医学教育などのコースを習得するのが最近の傾向だ。常に知識、技量を進化させていくという態度がプロだ。プロフェッショナルが自信を持ち、人々に尊敬される理由がここにある。

> 学生時代が遠い懐かしい昔の思い出になりましたが、今は、まだまだ悪戦苦闘の毎日で、懐かしい思い出になるためには、まじめに戦った日々が必要なんじゃない？

友達のNateが同じことを言った。「日本のことが、とても懐かしいね」NateとLynn(写真:連載第1～5回参照)の2年間の長崎での体験は、悪戦苦闘の連続。北米人にとって、日本独特の文化やコミュニケーションの仕方は、彼らの理解を超える。「すぐ北米と比べて、日本はおかしいとか良いとか、議論したわね」とLynnがNateを見て微笑んだ。「そうだね、今考えると、国や文化のある面の良し悪しを議論することは危険を伴うね」確かにそうだ。日本と北米の医療を比較して、(北米では今…)(世界の最先端北米では…)などと、虹の向こうに夢みたいな世界があるような論調で紹介するメディアの情報には、気をつけなければならない。僕のこの記事もDr.Hisaが見たカナダの一部にしかすぎない。「でもね、あの日々は私達にとって一

生忘れられないワ。ねえ、ハニー」とLynnはNateに甘える。「そうだね、僕らの体験は素晴らしかったネ。でも僕らが見た日本は僕らの日本で、一般化する必要はないと思う。もっとこれから日本のことを学ぼうと思っているんだ」Nateは今年の夏、再度来日し日本文化を研究する。「大事なことは、continuing studyさ。日本を理解するなんて一生できないだろうけどね」トロント大学には働きながらも勉強が続けられるSchool of Continuing Studyや医学部にはCME部門、さらに医療関係の教員を育てるDepartment of Center for Faculty Developmentがある。学習に終わりはない。そこでは、研修医とセミタイヤした医師が机を並べて学ぶ姿もめずらしくない。

> 何からどう考えればいいのでしょうか？

同じ質問に何人かのカナダ人医師がこう答えていたのを思い出すヨ。

自分のゴールを決めて、そこに到達するためにやるべきことの優先順位を決める。それをひとつひとつ楽しくこなしてゆく。「だって、自分の人生も仕事も一生続くじゃない。楽しくないとね」カナダ人らしい答えだ。しかし、これは成人教育の基本的な考え方と同じだ。また、大事なことは、問題が発生する度に目標や手段を変更してゆく柔軟性と寛容さかもしれない。「完璧なものはないから、いつも教育者と学習者は話す必要があるのヨ」私のボスBatty教授はいう。日本の新研修医制度は5年後の見直しが明記されている。今回は、現場の研修医、指導医の参加はもちろんのこと、患者さんや教育学者や外国人医師などの幅広い意見も入れて自由に議論する場を作らなければならないと思う。誰が？ 行政が？ 現場の私たちが「研修医教育とは何か、どうあるべきか」と、声を大きくして議論すべきだと思う。声が大きくなると、誰も注意を払わないし、いつのまにかどこかですべてが決まってい

まっていた… ということになりかねない。



友人夫婦のLynn & Nate (トロントのカサロマ城にて)

> 「オズの魔法使い」のドロシーのように、どこか、虹の向こうの悩みのない国へ最後にドロシーは、there is no place like home と赤い靴のかかとを3回鳴らして家へ帰ってくるよね！

トラブルのないどこかへ行きたいと願っていた少女ドロシーは、旅で出会った3人の仲間が冒険の中で欲しがっていた知恵と勇気と優しい心を、魔法の力ではなく、自分達の力で獲得したことに気づき、そして叔母さんのいる元の家へ帰ってゆく。ヨウコの研修病院での仕事も僕のカナダでの留学もドロシーと同じよう

なものかもしれない。悩みのない夢がかなう魔法のような研修プログラムを持つ病院は、日本にもカナダにもない。僕達(研修医と指導者)はこれから勇気を持って、知恵を絞って、お互い優しい心をもって助け合って冒険をしなければならないのかもしれない。

> P.S もうすぐ帰国ですね、楽しみに待ってます!! ありがとう！一緒に長崎ちゃんぽんを食べに行くことを楽しみにしているヨ！

カナダでの冒険はもうすぐ終わりだが、僕の新たな冒険はすでに始まっている。日本とカナダの橋渡し役として医学教育のワークショップ(2月と5月には、トロントで<http://www.cme.utoronto.ca/PDF/PHS0601-C.pdf>, 3月には長崎で[byoinsaisei.net/\)の企画にかかわる。カナダでの経験を大切にして、研修医や指導医の皆さんと一緒に、日本独自の研修プログラムを作っていく冒険は始まった！ヨウコ、一緒に日本の医学教育を変えていこうヨ！](http://hekichi-</p></div>
<div data-bbox=)

(最後にこのコラムを支えてくださった多くの方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。)